

# 感度と操作性を極めた「極鋭タチウオゲーム」登場

●タチウオのテンピン釣りとして多くのファンに支持されていた「極鋭タチウオゲーム」がモデルチェンジして新登場。SMT、AGS、X45、ESSなどの機能はそのままに「軽さは感度」、ダイワテクノロジーによる10グラムの軽量化で、さらなる感度アップと操作性を実現。新搭載のゼロシートは軽量化だけでなく、ストレスゼロのフィット感、さらなる操作性を追求している。7月発売予定。



▲アイテムは3種類



▲ゼロシートの採用でパーミング性能もアップ

アイテム	全長 (m)	継数 (本)	仕舞 (cm)	自重 (g)	先径/元径 (mm)	オモリ 負荷(号)	適合クラブ サイズ	カーボン 有率(%)	メーカー希望 本体価格(円)
M-175	1.75	2	130	88	1.0/9.8	30-60	SSS	92	54,300
MH-175	1.75	2	130	89	1.0/9.8	40-80	SSS	94	54,800
H-175	1.75	2	130	92	1.0/9.8	60-120	SSS	95	55,000

## NEWシーボーグ200J

●高槻さんがメインで使用したリールが発売されたばかりの「シーボーグ200JL-DH」という左巻きダブルハンドル仕様だ。軽量化による感度アップはもちろん、アルミジョグダイヤル、ロープロならでのパーミング性能、ドラゴンにもひるまないハイパワー仕様など、まさにタチウオに最適な機能が詰め込まれている。



■SPEC =ギア比 5.1、巻き取り長さ 55cm、自重 490g (DHは 485g)、最大ドラッグ力 10kg、最大巻き上げ力 28kg (スーパーリチウム使用時 31kg)、糸巻き量 PE1.5号 450m、2号 300m、メーカー希望本体価格 85,000円。200J、200J-DH、200JL、200JL-DHの4アイテムあり。好評発売中。

## ライトゲームIC150

SEABORG 200JL-DH

●手巻き派におすすめ、「ハイパードライブデザイン」搭載の小型軽量、カウンター付きの次世代ベイトリール。



LIGHT GAME IC150DH

■SPEC =ギア比 6.3、巻き取り長さ 70cm、自重 215~240g、糸巻き量 150=PE2号 200m、200=3号 200m、メーカー希望本体価格 32,000~35,600円

「MHはオモリ60号前後、Mは30~40号あたりがおすすめてですが、深場でもクッション性を生かして釣るならMもありです」と言いながら、当日自

高槻さんは得意の「ノーテンシ」もご紹介。全種に搭載された「ゼロシート」もお気に入り。 「ふんわり握られて疲れを抑えつつ、いざという時に瞬発的なパワーを出せるんです」

「前作より10グラムも軽くなったので、いっそうシャクリやすくなったうえ、感度も上がっています」

2本交じりで数を重ねていく。「前作より10グラムも軽くなったので、いっそうシャクリやすくなったうえ、感度も上がっています」

▲前作に比べて大きく調子が変わったのがH



▲中小型の数釣りを楽しむならテンピン釣り

### 動画連動!



★当日の動画は「船最前線」よりご覧いただけます。



M ▲ライトゲームICとの組み合わせで見事当日最大をゲット



MH ▲オールマイティに使える調子



H ▲前作に比べて大きく調子が変わったのがH



★指幅4本クラスを釣って好スタートを切る



## 数を釣るなら一日の長テンピンで狙う夏タチウオ

★タチウオの名手に最新、最強タックルのコンビ。まさに鬼に金棒

## 最新タックルが魅せる 高槻慧のスーパーテクニク

THE FRONT OF OFF SHORE FISHING vol.74

# タチウオ最前線

at 三浦半島京急大津出船



●周年釣れる東京湾のタチウオ、初夏の一時は食い渋りを見せていたものの、6月中旬より復活、一気に夏タチシーズンへ突入した。今回はタチウオ釣りの名手、高槻慧さんが最新のテンピン釣りタックルでチャレンジした模様をお届けする。



★高槻さんの当日最大は100センチクラスだった

▲さらに軽量化されたタックルはシャクリやすさはもちろん、感度アップにも貢献  
▲通常は快適天秤マルチ(下)、クッション性を求めるなら快適天秤アーチ、使用オモリ60号  
▲仕掛けはDフロン船ハリス200FX8号にDマックス船タチウオSSマルチの組み合わせ



タチウオはテンピン、テンヤ釣りのいずれもこなす高槻さんだが、中小型がメインとなる夏タチウオシーズンを迎え、今回はテンピン釣りにこだわってみるという。

それにはもう一つ理由がある。ダイワから新発売されたテンピンタチウオ最新ロッド「極鋭タチウオゲーム」の3モデルを使い、状況に応じた使用方法を検証するためだ。

乗船したのは三浦半島京急大津のいな丸。曇り空ながらベータナギの釣り日和のなか、たくさん乗船者とともに7時15分に出船。まずはタナ35~45メートルの指示で釣り開始。

高槻さんが最初に手に取ったのは中間モデルのMH、リールは発売されたばかりの「ニューシーボーグ200JL-DH」という最新、最強コンビである。

高槻さんのテンピン釣法はだれもが認める名手の領域。スタートはハンドル3分の1回転でシャクリ上げてくるという基本的な釣り方。すぐにアタリをとらえたが、そのままシャクリを繰り返して、大きく竿が引き込まれたところで合わせる。上がったのは指幅4本弱のますますサイズだった。

朝のうちには活性も高かったよう、この時期ならではの指幅

後半に取り出したのはH。深場や速潮に向くタイプではあるが、それだけではなかった。「前作と大きく調子が変わったのがHです。穂先を柔軟にして手を強くしたテンヤ用に近い調子で、シャキシャキ誘って掛けにくいタイプです」

数本を追加したところで13時の納竿。当日は70~125センチを0~27本、高槻さんは20本を釣って2番手。型の最大はテンヤ、数のトップはルーアー釣りだった。「あらゆる面で前作より進化、テンピン釣り最強ロッドは間違いありません」と高槻さんは太鼓判。本格的シーズンの爆釣シーンが目に浮かぶようだった。